

MINOKAMO STORY



美濃加茂市の軌跡

「総合文化都市建設へ——。」美濃加茂市の誕生にあたり、初代市長を務めた渡辺栄一市長は、市民の団結をもとにした強力で豊かな市政の実現を、高らかに呼び掛けました。

加茂郡内の太田町と古井町を中心に、山之上村、蜂屋村、加茂野村、伊深村、三和村（川浦地区、甘屋地区）、下米田村、和知村牧野地区が合併して、昭和二十九（一九五四）年四月一日に産声をあげた美濃加茂市。各所で祝賀行事が行われ、市民はさまざまな思いを分かち合いながら、美濃加茂のこれからについて思いを馳せました。

鮮やかな情景が散りばめられた「美濃加茂市の歌」（昭和三十八年制定）の歌詞には、東海の要に生きる者としての自負や誇り、そして希望が満ちあふれています。当時、そこはまさに、新しき陽の差すところでした。

市制が施行されてから七〇年。社会が急速に拡大と変化を続けるなか、いくつもの困難を乗り越えて、道路や上下水道をはじめとする都市基盤の整備や、教育・文化・福祉の充実などが進められ、今では五万七千を超える人たちが暮らす地方都市へと発展しました。



何気ない景色、変わらないモノ、コト…。
変わってもなお残り続けるもの。市民やこ
のまちにゆかりのある、さまざまな人た
ちを感じる、美濃加茂市の魅力を紹介して
いるリーフレット「ミノカモ ストーリー」。子
どもの頃によく見た風景、大切な人との
思い出が詰まった場所など、特別なス
トーリーを皆さんと共有しながら、昨年度
vol.3の発刊を迎えました。本誌ではそん
な「ミノカモ ストーリー」を、美濃加茂市の
歴史になぞらえ、まちの移り変わり、暮ら
しの発展を、70年目の姿として記録して
未来へとつないでいきたいと思います。

70th MINOKAMO STORY

Contents

- わたしの好きなみのかも**
- 5 太田/古井/山之上/蜂屋
加茂野/伊深/三和/下米田

- 市制施行70周年記念インタビュー
- 21 BEAMS JAPANと美濃加茂市
BEAMS JAPAN クリエイティブディレクター 鈴木修司さん

- BEAMS JAPAN監修
- 23 市制施行70周年記念商品の紹介

- 25 市制施行70周年記念ソング

- 26 あとがき



未来につなぐ
70年目の美濃加茂を記録して





美濃加茂市在住
マカリオ サンディさん

2013年にフィリピンから来日して以来、美濃加茂市で暮らしています。このまちの人たちはみんな礼儀正しく、どこへ行っても安全でとても住みやすいと感じています。これからもいろんな場所へ出掛け、たくさんの人と出会いたいです。

美濃太田駅北口を出てすぐ近くにある大手町公園は、美濃加茂市の中で一番好きな公園です。近くに住んでいたこともあるのですが、素敵な彫刻がいくつ設置されており、それを友達と観賞したり写真を撮ったりしています。

前半に公園をつくる時に「世界の中的美濃加茂市」を表現するために描かれたそうです。美濃加茂市に来た頃はまったく知らない土地で戸惑いもありましたが、そんな知らないまちも、暮らした時間とともに大切な故郷へと変わりました。この場所は、母国と日本の二つの故郷を感じられる素敵な場所です。

No. 02

こんなところに世界地図



料理家/写真家
長尾 明子さん

美濃加茂市出身、minokamoの屋号で活動。東京と故郷を行き来しながら、全国各地で地の食材を活かした料理を提案、郷土食を通して地域の魅力を伝えています。



お米やお酒、堂上蜂屋柿など美味しいものがあふれる故郷、美濃加茂。私のお気に入り、木曾川と太田宿です。美濃加茂滞在中は毎朝、木曾川へ向かいます。川と空の景色が清々しく、すれちがう方々とのあいさつも気持ちいい！川の流れを眺めながら散歩して、

おにぎりをほおばるのが私の定番。木曾川のすぐ北側を通る旧中山道の太田宿には往時の風情が残っていて、酒蔵や魅力的なお店が点在。大きなエノキのヤドリギがシンボルの太田宿中山道会館の敷地内には、岡本一平（岡本太郎の父）の終の棲家「糸遊庵」が再現され、昭和初期の文人の暮らしぶりを垣間見ることが出来ます。木曾川の風景と宿場のまち並みの両方を味わえるこの界限は、美濃太田駅から歩いて十五分ほどなので、駅からのんびり歩いて訪れるのもおすすめです。



太田

Ota



No. 01 木曾川の朝と太田宿のまち並み



サンドイッチ屋 経営者
美濃加茂市在住
渡邊 久子さん

長年地元の皆さんにご利用いただいているサンドイッチ店「朝日屋」を営んでいます。創業は市制施行より1年長い1953年。パンやお総菜は、市内の高校の売店でも販売しているので、現役の学生はもちろん、地域で暮らす卒業生たちからも「売店のおばちゃん」と、よく声を掛けてもらえます。

時代の変化とともにお店が減り、住宅やアパートが増えて

汗を流しながら遅刻しないよ

ここに嫁いできた時、「生活に必要なお店が揃っている」とワクワクしたことを覚えています。

の数も少なくなりましたが、この平和通りを小学生が元気よく登下校する姿や、高校生が

ききました。当時通り沿いにあっ

うになりました。

た広場では、子どもたちが学校

に地域の人たちが見守る姿が

常に見られるこの古井街道は、自分

の価値を見せられる場所だと

思っています。

うに必死で自転車をこぐ姿、

子どもたちの安全を守るため

に地域の人たちが見守る姿が

常に見られるこの古井街道は、自分

の価値を見せられる場所だと

思っています。

うに必死で自転車をこぐ姿、

No. 04

古井街道と呼ばれる 神明森山線



ダボ・リージョン
(オーストラリア在住)
足立 有希さん

美濃加茂高校1年生の時に派遣生として渡豪。姉妹都市交流を通じて現地で出会った夫との結婚を機に、夫のまちでもあるダボ（シドニーの北西約400kmに位置する地方都市）へと移住し、どちらのまちも私の大切な故郷となりました。現在は両市をつなぐ姉妹都市交流のお手伝いをしています。

加茂市から寄贈された日本庭

場になってほしいと願っています。

ダボには、二〇〇二年に美濃

期、ダボにも「美濃加茂WAY」という新たな道が作られました。

贈られたカンガルー像（ブレット

た。「ダボロード」と「美濃加茂WAY」。この二つの道が両市の

市のつながりや絆の強さを感じ

友関係の築き上げてきた道

ることが出来ます。

遥園のように、これからも多く

な感覚になりました。

の人の歩みを支えている

このダボロードを奥まで進む

「愛」が大きいと感じています。

と、姉妹都市提携三〇周年を

また、この場所に限らず、ダボの

記念して、ダボ・リージョンから

情は大きく、私がこの地に渡

贈られたカンガルー像（ブレット

り、今日まで暮らしてこれたの

モン・ガリング作）があり、両

も、こうした皆さんの「美濃加

市のつながりや絆の強さを感じ

茂愛」が大きいと感じています。

ることが出来ます。

の人の歩みを支えている

な感覚になりました。

また、この場所に限らず、ダボの

この場所を初めて訪れた時は、ま

また、この場所に限らず、ダボの

るで大自然のオーストラリアの

また、この場所に限らず、ダボの

アウトバックを歩いているよう

また、この場所に限らず、ダボの

な感覚になりました。

また、この場所に限らず、ダボの

このダボロードを奥まで進む

また、この場所に限らず、ダボの

と、姉妹都市提携三〇周年を

また、この場所に限らず、ダボの

記念して、ダボ・リージョンから

また、この場所に限らず、ダボの

贈られたカンガルー像（ブレット

また、この場所に限らず、ダボの

モン・ガリング作）があり、両

また、この場所に限らず、ダボの

市のつながりや絆の強さを感じ

また、この場所に限らず、ダボの

ることが出来ます。

また、この場所に限らず、ダボの

な感覚になりました。

また、この場所に限らず、ダボの

このダボロードを奥まで進む

また、この場所に限らず、ダボの

と、姉妹都市提携三〇周年を

また、この場所に限らず、ダボの

記念して、ダボ・リージョンから

また、この場所に限らず、ダボの

贈られたカンガルー像（ブレット

また、この場所に限らず、ダボの

モン・ガリング作）があり、両

また、この場所に限らず、ダボの

市のつながりや絆の強さを感じ

また、この場所に限らず、ダボの

ることが出来ます。

また、この場所に限らず、ダボの

な感覚になりました。

また、この場所に限らず、ダボの

このダボロードを奥まで進む

また、この場所に限らず、ダボの

と、姉妹都市提携三〇周年を

また、この場所に限らず、ダボの

記念して、ダボ・リージョンから

また、この場所に限らず、ダボの

贈られたカンガルー像（ブレット

また、この場所に限らず、ダボの

モン・ガリング作）があり、両

また、この場所に限らず、ダボの

市のつながりや絆の強さを感じ

また、この場所に限らず、ダボの

ることが出来ます。

また、この場所に限らず、ダボの

な感覚になりました。

また、この場所に限らず、ダボの

このダボロードを奥まで進む

また、この場所に限らず、ダボの

と、姉妹都市提携三〇周年を

また、この場所に限らず、ダボの

記念して、ダボ・リージョンから

また、この場所に限らず、ダボの

贈られたカンガルー像（ブレット

また、この場所に限らず、ダボの

モン・ガリング作）があり、両

また、この場所に限らず、ダボの

市のつながりや絆の強さを感じ

また、この場所に限らず、ダボの

ることが出来ます。

また、この場所に限らず、ダボの

な感覚になりました。

また、この場所に限らず、ダボの

このダボロードを奥まで進む

また、この場所に限らず、ダボの

と、姉妹都市提携三〇周年を

また、この場所に限らず、ダボの

記念して、ダボ・リージョンから

また、この場所に限らず、ダボの

贈られたカンガルー像（ブレット

また、この場所に限らず、ダボの

モン・ガリング作）があり、両

また、この場所に限らず、ダボの

市のつながりや絆の強さを感じ

また、この場所に限らず、ダボの

ることが出来ます。

また、この場所に限らず、ダボの

な感覚になりました。

また、この場所に限らず、ダボの

このダボロードを奥まで進む

また、この場所に限らず、ダボの

と、姉妹都市提携三〇周年を

また、この場所に限らず、ダボの

記念して、ダボ・リージョンから

また、この場所に限らず、ダボの

贈られたカンガルー像（ブレット

また、この場所に限らず、ダボの

モン・ガリング作）があり、両

また、この場所に限らず、ダボの

市のつながりや絆の強さを感じ

また、この場所に限らず、ダボの

ることが出来ます。

また、この場所に限らず、ダボの

な感覚になりました。

また、この場所に限らず、ダボの

このダボロードを奥まで進む

また、この場所に限らず、ダボの

と、姉妹都市提携三〇周年を

また、この場所に限らず、ダボの

記念して、ダボ・リージョンから

また、この場所に限らず、ダボの

贈られたカンガルー像（ブレット

また、この場所に限らず、ダボの

モン・ガリング作）があり、両

また、この場所に限らず、ダボの

市のつながりや絆の強さを感じ

また、この場所に限らず、ダボの

ることが出来ます。

また、この場所に限らず、ダボの

な感覚になりました。

また、この場所に限らず、ダボの

このダボロードを奥まで進む

また、この場所に限らず、ダボの

と、姉妹都市提携三〇周年を

また、この場所に限らず、ダボの

記念して、ダボ・リージョンから

また、この場所に限らず、ダボの

贈られたカンガルー像（ブレット

また、この場所に限らず、ダボの

モン・ガリング作）があり、両

また、この場所に限らず、ダボの

市のつながりや絆の強さを感じ

また、この場所に限らず、ダボの

ることが出来ます。

また、この場所に限らず、ダボの

な感覚になりました。

また、この場所に限らず、ダボの

このダボロードを奥まで進む

また、この場所に限らず、ダボの

と、姉妹都市提携三〇周年を

また、この場所に限らず、ダボの

記念して、ダボ・リージョンから

また、この場所に限らず、ダボの

贈られたカンガルー像（ブレット

また、この場所に限らず、ダボの

モン・ガリング作）があり、両

また、この場所に限らず、ダボの

市のつながりや絆の強さを感じ

また、この場所に限らず、ダボの

ることが出来ます。

また、この場所に限らず、ダボの

な感覚になりました。

また、この場所に限らず、ダボの

このダボロードを奥まで進む

また、この場所に限らず、ダボの

と、姉妹都市提携三〇周年を

また、この場所に限らず、ダボの

記念して、ダボ・リージョンから

また、この場所に限らず、ダボの

贈られたカンガルー像（ブレット

また、この場所に限らず、ダボの

モン・ガリング作）があり、両

また、この場所に限らず、ダボの

市のつながりや絆の強さを感じ

また、この場所に限らず、ダボの

ることが出来ます。

また、この場所に限らず、ダボの

な感覚になりました。

また、この場所に限らず、ダボの

このダボロードを奥まで進む

また、この場所に限らず、ダボの

と、姉妹都市提携三〇周年を

また、この場所に限らず、ダボの

記念して、ダボ・リージョンから

また、この場所に限らず、ダボの

贈られたカンガルー像（ブレット

また、この場所に限らず、ダボの

モン・ガリング作）があり、両

また、この場所に限らず、ダボの

市のつながりや絆の強さを感じ

また、この場所に限らず、ダボの

ることが出来ます。

また、この場所に限らず、ダボの

な感覚になりました。

また、この場所に限らず、ダボの

このダボロードを奥まで進む

また、この場所に限らず、ダボの

と、姉妹都市提携三〇周年を

また、この場所に限らず、ダボの

記念して、ダボ・リージョンから

また、この場所に限らず、ダボの

贈られたカンガルー像（ブレット

また、この場所に限らず、ダボの

モン・ガリング作）があり、両

また、この場所に限らず、ダボの

市のつながりや絆の強さを感じ

また、この場所に限らず、ダボの

ることが出来ます。

また、この場所に限らず、ダボの

な感覚になりました。

また、この場所に限らず、ダボの

このダボロードを奥まで進む

また、この場所に限らず、ダボの

と、姉妹都市提携三〇周年を

また、この場所に限らず、ダボの

記念



みのかも文化の森
美濃加茂市民ミュージアム
館長

可児 光生さん

身近な所にある資料や資源を通して、地域の良さが分かり合える場所にミュージアムはなれればと考えています。また、関わっている人々や、そこにある資源を生かしながら、地域の文化をつないでいく存在でありたいと思っています。



コンクリート支柱によって果樹栽培の棚のワイヤーを引っ張り支える方法の一つで、新案特許として広く導入されたものです。山之上果樹園でも戦前から使われ、コンクリート柱に「幾見式」を記すプレートを見ることのできるものもあります。

山之上果樹園がある市内山之上町は、二千万年前に起きた火山活動の痕跡を示す「珪化木・木石」が見つかったり、

No. 06 果樹園の幾見式



三十万年前に古木曾川・古飛騨川の動きによって段丘ができたりと、地質的な歴史も感じられる場所です。こうした特徴が現代の果樹栽培や人々の暮らしにも影響をあたえています。



豊田合成株式会社
カーボンニュートラル・
環境推進部担当副本部長
長尾 一彦さん

自然豊かで美しい美濃加茂の地で活動に感謝しています。豊田合成の「緑あふれる豊かな地球を未来と子供たちに」というスローガンのもとで今後も地域の皆さんとともに「樹守の里」の活動を進めていきたいと思っています。

私たちの仕事は、一見すると里山環境と縁がないように思われるかもしれませんが、使用している水は木曽川水系の水で、その水は豊かな森林から生み出されます。また、工場を作る過程で森林を伐採するため、その責任として、里山の整備活動や、社員自身による森づくりの活動も行っています。

里山環境と縁がないように思われるかもしれませんが、使用している水は木曽川水系の水で、その水は豊かな森林から生み出されます。また、工場を作る過程で森林を伐採するため、その責任として、里山の整備活動や、社員自身による森づくりの活動も行っています。

美濃加茂市山之上地区の里山には、私たちの会社が所有する企業林「樹守の里」があります。自社で続けてきた環境への取り組みの中で、市が掲げる「里山千年構想」との出会いがきっかけとなり、社員の環境活動を行うフィールドとして、年間を通じてさまざまな体験を行っています。

市役所や森林組合の皆さんの力を借りながら、継続的に整備してきたこともあり、最近では、ホタルやトンボなど、かつて里山にいた生き物たちが多く確認できるようになりました。社員も、この場所で家族と一緒に行い、美濃加茂市やこの場所に対する愛着がどんどん深まっています。私自身も、樹守の里の階段をのぼった先にある広場はどこか落ち着く空間で、大好きな場所となりました。

No. 05 企業林「樹守の里」の階段の先にある空間

山之上

Yamanoue





一般社団法人代表/保育士
園田 智子さん

2015年に「自然育児 こどもの庭」を設立。園舎のない「森のようちえん」をスタートさせ、豊かな自然の中で、大人も子どもも共に学び、感じ、「生きる力」を身につける活動を行ってきました。温かくなってきた大人たちの輪の中で、子どもたちを真ん中に、より良い未来の創造を目指しています。

二〇一五年から、この地域の森をフィールドに、子どもが自然の中で過ごす「森のようちえん」を運営しています。二〇二〇年からは、蜂屋町大洞地区にあった空き家を園舎として活用するようになり、この場所から響く子どもたちの声地域を元気にしてくれているという声もいただけるようになりました。地域の皆さんがずっと大切に守ってきた里山を、私

たちも一緒に整備し活用させてもらい、未来の里山や子どもたちの姿を想像しながら活動しています。テクノロジーの発達により、あらゆる事が人間の力で管理できると錯覚しがちな現代において、自分たちではコントロールできない自然の中に身を置く経験から得られる「蓄積」はとても貴重です。森のようちえんの子どもたちには、人間の

No. 08

大洞にある「森のようちえん」の園舎



堂上蜂屋柿振興会 会長
美濃加茂市在住
酒向 邦彦さん

蜂屋生まれ蜂屋育ち。JA全農の職員として岐阜県産農産物全般の販売を担当していました。退職後、本格的に堂上蜂屋柿作りに関わるようになり、2023年度より堂上蜂屋柿振興会会長として活動させていただいております。



美濃加茂市の特産として知られる「堂上蜂屋柿」は、蜂屋町原産の「堂上蜂屋」保存木を接木した果実を使つて作られるものを指します。私は母親が堂上蜂屋柿を作っていた畑をもつていて、それを受け継ぎ柿作りを始めました。

No. 07 色づいた 大ぶりの柿が実る柿畑

蜂屋

Hachiya



堂上蜂屋柿のシーズンは冬のイメージですが、年間を通して作業があります。毎年二月には剪定・施肥、五月から七月にかけて、余分な蕾や形の悪い実を取り除く「摘らい・摘果」を行います。その後も日々管理していくことで養分が集中した柿が結実します。秋になり、色づいた大ぶりの柿がたわわに実った畑を見ると、「今年もいい干し柿を作ろう」という気持ちになります。

長い歴史の中で培われてきた「堂上蜂屋柿」。私たちのやっていることもその歴史の一部として、次の世代に伝えていきたいと思います。

力が及ばない状況にも対峙できる柔軟な心と身体を育てたいと願っていますし、目に見えない自然への向き合い方が守られているこの大洞地区の里山だからこそ、その力を育めると感じています。





工務店経営者/大工
美濃加茂市在住
中島 彰宏さん

中学3年生の頃から、大工の父親を手伝いながらさまざまな現場を経験。35歳で起業し「株式会社シマケン」を設立。新築工事のほか、地域課題でもある空き家にも向き合い、中古住宅を再生して、新たなライフスタイルを提案するプロジェクトも行っています。

私が暮らす加茂野町では、古くから農業用水を確保するために作られた人工的な池である「ため池」が多くあり、子どもの頃からその存在が身近にありました。実家の近くにも、二百年近く前に整備されたとされている「木野池」があり、小学生の頃は、よく池の中央部に続く橋で釣りをしていた記憶があります。子どもだった私にとって、池は遊びのフィールドと

してはもちろんですが、さまざまな気づきや学びを与えてくれたような場所でした。今でも池の周りや橋で遊ぶ子どもたちを見ると、とてもほっこりした気持ちになります。

また、消防団時代には、地域で火災があった場合、消火のための「水利」としても活用できることから、ため池を活用した訓練を定期的に行っていたことも思い出されます。それ以外に



も、農業用水の確保や水辺空間の形成、大雨時の貯留効果による防災機能確保など、このまちのため池はまちの安心・安全を守る大切な役目を担っていると感じています。

No. 10 木野池中央部に続く橋



加茂野

Kamono

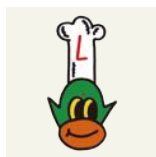
No. 09 小学校へと続く放課後のあぜ道

小学生の頃、家に帰るとすぐランドセルを置いて、近所の公園や学校の運動場へ遊びに行くような子どもでした。私の家と学校とは、少し距離があったので、登下校時は通学班のみんなと歩いていた通学路が、学校から帰ると、その歩いてきた通学路を、自転車のカゴにサッカーボールを入れて戻っていく毎日を送っていました。

通学はもちろん、こうした放課後の時間を含めると数えきれなくらい通った通学路。田んぼのあぜ道のような場所だったので、子どもながらにその道から季節を感じて生活していたように思います。夏の初めから秋にかけて聞こえたカエルたちの鳴き声や、友達と一緒に口



にして楽しんだ野草の甘酸っぱい味、ジャンケンをしながら歩いたり走ったりしたときに踏みしめた地面の感覚など、この道を通して過ごした放課後のあの時間は、いまでも鮮明に覚えている私にとって大切な場所となっています。



カレーショップ経営者
美濃加茂市在住
高木 健斗さん

美濃加茂生まれ美濃加茂育ち。ある日出会ったキッチンカーのカレーの味が忘れられず、カレーの知識や飲食店について学ぶためインド料理店で4年間修行。インドにも渡航、今日まで理想の味を追求してきました。2022年にカレーショップ「らんびー」を市内にオープン。地域の人々が集う「まちのカレー屋」でありながら、マニアにも応えていただけるお店を目指しています。





シンガーソングライター
大阪府在住
田中 慈人さん

平成元年、岐阜県美濃加茂市生まれ。元小学校講師。「木曾の流れとともに生きたのは僕たちだけじゃない」ことを知らしめるため、ギター片手に全国を奔走中。やっぱりテーマは“慈しみ”なんじゃねえかと思う今日この頃。地元愛を歌う楽曲「カモン!MINOKAMO!!」は、地元の盆踊りでも踊られる代表曲です。

市北部の伊深町には水田が広がり山々の緑と空の青のコントラストを体全体で感じることが出来ます。山際にまちが形成され、その南側に田んぼが広がっている風景がなんともいえず。吉田拓郎の「夏休み」を聴くと、日本全国どこにいても真先にこの風景を思い出します。

面広がる田園にその姿を感じ取ることが出来ます。伊深町では江戸時代、田んぼに、せきを造ったことによって、水争いが起きた記録や、不作が続く、年貢に苦しんだ人々が、旗本の江戸屋敷へ出向き直訴した歴史もあります。こうした歴史から平和な現代へとつながるこの里山は、いつまでも残していきたい原風景であり、僕の中の「ザ・田舎の夏休み」なんです。

No. 12 ザ・田舎の夏休み



伊深

Ibuka

No. 11 旧櫻井邸

美濃加茂市の里山の豊かさを象徴しているような伊深地区にある旧櫻井邸は、旧伊深村の村長で、加茂郡の郡議員を務めた故櫻井福太郎氏が、肥料米販売店兼住居として大正五年から八年にかけて建築した木造二階建ての建物。装飾性にも優れ、貴重な近代和風建築として大切に保存されてきました。

そんな貴重な建物を後世に残していくため、里山にとって良い状態を指す「里山ウエルビーイング」を提唱しました。里山資源の地域内循環を目指し、里山から搬出された樹木を木工品に加工したり、製材や加工時に出る端材やおがくずを燃料に使用したりと、この旧櫻



井邸を拠点に、地域内で小さな経済を回しながら豊かな里山を維持していくための一つのモデルを作りたいと考えています。

伊深地区には、歴史を大事にし、文化を丁寧に育んできた人々のコミュニティがあります。この旧櫻井邸を伊深(BUKA)と文化(CULTURE)を掛け合わせた「BUCAL(ブカル)」という名称で、里山資源の地域内循環を意識しながら、新たな里山文化を育んでいく場所として活用していきます。



合同会社代表
木工作家
和田 賢治さん

アメリカの大学でまちづくりを学び、卒業後、自動車メーカーに勤めるも、大量生産大量消費の世の中に疑問を持ち退社。木工の世界へ飛び込み、2017年に「合同会社ツバキラボ」を創業しました。「地域の資源で暮らしを豊かに」を信条に地域材活用プロジェクトを推進しています。





美濃加茂自然史研究会
美濃加茂市在住
安藤 志郎さん

教員、博物館学芸員などを
経て現在は美濃加茂自然
史研究会の事務局を担
当。長年にわたり、市内・
県内の自然について調
査・研究を進めています。
最近では、美濃加茂や加
茂郡の自然環境を調査し
てまとめた「守りたい 加茂
の豊かな自然」を発刊する
にあたり、編集委員長を務
めました。

美濃加茂市の最北三和町の
冷田洞から市内最高峰の御殿
山（五百九十九メートル）を経
て上甘屋に至る遊歩道です。
市内では最も豊かな自然が残
されている場所で、沢沿いの切
り立った岩や植物は一見の価値
があります。美濃加茂市の花
「アジサイ」の仲間も多く、ヤマ
アジサイ、クサアジサイ、コアジ
サイなどが遊歩道沿いに見ら
れます。岩の上から滴り落ちる

水に目を向けると岩場から垂
れ下がったイワナンテンを見る
ことができます。また、シダ植
物の宝庫でもあり、色々なシダ
に出会えるのも魅力です。
御殿山山頂には白山神社が
祭られ、付近の岩場からの展望
は疲れた体を爽快な気分にし
てくれます。山頂から上甘屋へ
の道は利用者も少なく、ヤブツ
バキの林の中でカモシカが迎え
てくれるかも知れません。

No. 14 奥山自然遊歩道



奥山自然遊歩道
登りルート入口



喫茶店経営者
美濃加茂市在住
都竹 祐樹さん

名古屋や岐阜の飲食店で
修業を重ね、美濃加茂市
民ミュージアムのカフェ運
営を経て、2018年に「喫
茶つみき」をオープン。同時
期、家族と美濃加茂市三
和町に移り住みました。たく
さんの人に支えてもらって
できたこの場所を拠点に、
自分たちが暮らす地域を、
子どもからお年寄りまで、地
域のみんなでもっと面白く
したいと思っています。

登り口から四十分ほど歩い
てたどり着いた山頂から眺め
る大好きな三和のまちは絶景
です。川沿いにまとまった集落

三和町と山之上町の境に位
置する富士山（標高三百五十
七メートル）。地域の人たちから
は「山之上富士」の愛称で親し
まれている山ですが、国土地理
院の地図でも「富士山」と表記
されている正式な富士山です。
二〇一三年に三和町から山頂へ
と続く全長四百七十五メー
トルの遊歩道が完成したことをき
っかけに、地域の人たちや子ども
たちと登るようになりました。

針葉樹林によって日影が確保
されているため、木陰の沢沿い
を気持ちよく歩くことができ
ます。
登り口から四十分ほど歩い
てたどり着いた山頂から眺め
る大好きな三和のまちは絶景
です。川沿いにまとまった集落

三和町は人口が少なく、町内
にある三和小学校も複式学級
制です。ただ、山に囲まれた静
かな自然環境は、子どもたちに
とって学び豊かな教育のフイ
ールドにもなっています。都会には
ない自然や地域で受け継がれ
ている文化に触れる中で、子ど
もたちをはじめとした多くの
人に「豊かに生きる」ということ
の意味を知って欲しいと願って
いますし、そのきっかけを私自
身も、地域コミュニティの中で
提供し続けていきたいと思っ
ています。

を眺めていると、そこに暮らす
人たちの顔が浮かんでくるの
も三和で暮らす人間ならではの
なにかかもしれません。

No. 13 富士山から 眺める三和のまち

三和

MIWA





岐阜県立加茂高等学校
ボート部所属
小林 杏奈さん

中学生の頃、隣町で開催されたボートの試合を観に行ったとき、その魅力に惹かれ、「マネージャーになろう」と決意し、加茂高校のボート部に体験入部。その時にボートを漕がせてもらった感覚が忘れられず、そのまま選手になり今日もボートを漕いでいます。

小山観音に隣接する小山公園の脇に、私たち加茂高等学校ボート部の艇庫があります。艇庫の中には、大切なボートやオールなどの道具が保管されているのももちろんですが、先輩たちの大会結果や写真、記録などが飾られていて、その歴史を見ながら、部員たちは日々練習に取り組んでいます。

この艇庫の横には棧橋が整備されており、ここからボートを浮かべ、練習を開始します。緩やかな飛騨川の流れや心地良い風を感じながら練習する中で、青柳橋や小山観音に続く石橋の下を通過するときに見ることが出来る橋の裏側は、ボート部にしか見ることができない景色かもしれません。

この場所で練習していると、地域の皆さんなどから温かい声援や差し入れをいただくことがあります。これは、私たちの頑張りだけでなく、先輩たちが築き上げてきた実績や地域の人たちとの信頼関係があつてのことだと感じています。私も、ボートの魅力を後輩たちにもしっかりと伝えていけるよう、ボート部の新たな歴史をこの艇庫に残していきたいと思います。

No. 16

小山公園脇にあるボート部の艇庫



クアオルト
健康ウォーキング専門ガイド
美濃加茂市在住
尾関 守さん

1954年の3月生まれで、その翌月に美濃加茂市が誕生。このまちとともに時代を生き、年を重ねてきました。現在は、生まれ育ったまちの魅力を多くの人たちに伝えたいという思いから、地元のまちづくり協議会の活動をはじめ、「クアオルト健康ウォーキング」の専門ガイドとしても日々活動しています。

※クアオルト健康ウォーキングで認定された米田白山の自然の中を歩く三・二キロのコースです。この山には小学校の二年生の時に初めて登って以来、いまでも足しげく通っています。

そんな米田白山を満喫できるのが、クアの道下米田さくらの森コース。地元の森林組合やまちづくり協議会、地元有志の皆さんと一緒に、整備をしたコースでもあるので、いろんな人に来てほしいと思う場所です。ウォーキングコースとしても道幅が広く、四季の移ろいと会話をしみながら歩くことができるので、楽しみながら健康づくりができるのもいいですね。また、登ったり下ったりと一気に登っていく道ではないため、運動



※クアオルト健康ウォーキングは、ドイツのクアオルト（療養地）で治療に利用されている運動療法「気候性地形療法」を基本に、日本の環境に適合させた個人の体力に合わせて行うことができるウォーキングです。

No. 15

クアの道下米田さくらの森コース

強度を上げながら安全に歩くことができます。

コースの折り返し地点には展望台があり、天気の良いれば御嶽山や伊吹山も見ることができると、絶好の眺望が望めます。歩くことで、皆さんの健康寿命の延伸に寄与できると思いますので、自信をもっておすすめるコースです。

下米田

Shimoyoneda



BEAMS JAPANと 美濃加茂市

市制施行70周年を市民の皆さんと盛り上げ、地域の魅力を再認識する機会とするため、市内事業者の皆さんと(株)ビームスの日本の良さや面白さを世界に発信する事業「BEAMS JAPAN(ビームス ジャパン)」とが連携して「市制施行70周年記念商品」を開発する事業を実施しました。美濃加茂市は、令和2年度から3年間BEAMS JAPANと連携したふるさと納税返礼品の開発および監修事業を行いました。この事業では、地域産品を通して、市内外に暮らす人たちが市の魅力を再確認することはもちろん、事業者の皆さんがBEAMS JAPANと協働することで、本市における新たな「稼ぐ力」の創出を目的に実施したものです。こうした経緯もあり、市制施行70周年の記念商品の開発を、BEAMS JAPANのディレクターらのアドバイスおよび監修のもと、市内事業者の皆さんと行いました。

市制70周年おめでとうございます。今回の記念商品開発のを中心にして美濃加茂市のお話をさせていただきたいです。

鈴木さんから見た美濃加茂市

今回の商品開発から遡ること4年、ふるさと納税返礼品の監修をご依頼いただいた日から、私たちビームスと美濃加茂市さんのシティブロモーション事業が始まりました。私の中で美濃加茂市というと、“電車で何度か通り過ぎたことのある場所”というくらいの認識で、仕事で関わらせていただくまでは一度も足を踏み入れたことのない町でした。

そんな町に、視察で初めて訪れた私ですが、町を周り始めた時の第一印象

は「美濃加茂市って…ちょっと薄味な町かも…」でした。しかし何度か市役所の皆さんの案内で市内を周り、この町を知り始めると「あれ…なんか味がしてきたかも?」と感じるようになり、市内のほぼ全域を周る頃には「やっぱりすごく味のある町だ!」と、少しずつ増していく魅力にワクワクしたことを覚えていました。これもひとえに町の魅力をしっかり認知している市役所の皆さんや地元の皆さんの協力があってからだと思えます。

こうして特徴が薄いと思っていた美濃加茂市は、いつからか私の中で「噛めば噛むほど美味くなる」たぐさんの味を秘めた町に変わっていました。

つい最近、ある雑誌のコラムの中でも「岐阜の旅で訪れたいスポット」とし

て美濃加茂市を紹介しており、私個人としても、もっと魅力を知ってみたい場所の1つでもあります。

記念商品にこめた思い

昨年までは、ふるさと納税返礼品の開発＝蔵入の増加という明確な目標があり、皆でそこに向かって商品を考えていけばよかったのですが、今回は70周年記念ということで『美濃加茂市らしさ』『美濃加茂市といえば』といったことを深く掘り下げる必要がありました。これは今後の課題でもあり、今回一番悩む部分だったと思います。

また、ご依頼いただいた身で本当に余計なお世話かもしれませんが「70周年の記念商品」という今回のテーマに私は当初から少し違和感がありました

た。市制70周年というのはとても素晴らしいことですが、これはあくまで通過点だと思います。この言葉を意識しすぎて、考えが小さくまとまってしまう心配もあったので、初回のミーティングでは、そういった思いを事業者さんにお伝えし、70周年に限定したものでなく、80年、90年、100年と長く続いていく、未来を見据えた商品を作ることを目標にしました。

商品開発を終えて

4年前、初めて商品の監修をした頃、どの事業者さんも割と受け身でしたが、今回はその頃の姿からは想像がつかないほど皆さんとても主体的に考えてくださって、よくこまめやってきてくださったなあ…という思いでいっぱい

です。品質はもちろんのこと、最初に共有させていただいた目標も、ネーミングやストーリーにうまく現れていて、今まで形にするのが難しかった『美濃加茂市らしさ』がたくさん詰まった素晴らしい商品が完成しました。

美濃加茂市さんに限らず、私たちがこうして自治体の方々と共有できる時間は限られていて、いつか離れる日が来ますが、そうなった時に、関わった方々がその後も自力で考え、自走できるようにっていくことが私たちの本望であり、一番嬉しいことです。

今回そういった、常日頃私たちが思い描いているような力を皆さんは着実につけていました。短期間ではありましたが本当に手ごたえを感じる商品開発だったと思います。

BEAMS JAPAN
クリエイティブディレクター

鈴木 修司

1976年、三重県松阪市生まれ、ビームスと同じ年です。年間120日近くを旅に費やし、日本各地のさまざまな場所で魅力的なモノ・ヒト・コトに関わる仕事をしています。肩書きは「BEAMS JAPAN」のクリエイティブディレクター、日本に関係することであれば比較的なんでも来いのスタンスです。大学などで講師を務めることも。『銘品のススメ』著者、『都道府県おでかけ図鑑』監修。

美濃加茂市のこれから

有名な観光スポットや名産品など、知名度と直結する魅力を持ち合わせていることはとても大切ですが、全国を見渡すと、そのような自治体ばかりではありません。美濃加茂市もどちらかといえ

ば後者にあたると思っています。ただ、私が数年前から感じていた「噛めば噛むほど美味くなる」という感覚は、この町の魅力として存在し、今まで、自分の住む町を自分ゴトとして捉えている方々の熱意によって支えられていると思います。

この先、私たちビームスが関わったことも通過点になると思いますが、もっともっとレベルアップした美濃加茂市の姿が見られることを期待しています。この度は、ありがとうございました。

堂上蜂屋柿カンフェクト



有限会社 川登屋
〒505-0005
美濃加茂市
蜂屋町中蜂屋2499-2
tel:0574-25-7137

美濃加茂市蜂屋町で千年以上前から受け継がれ、歴代の天下人たちにも愛された「堂上蜂屋柿」。その歴史を調べていくと、大正時代から昭和初期にかけて、当時の蜂屋柿販売組合が「堂上蜂屋柿カンフェクト」というゼリー菓子を製造し販売していたことを知りました。そこで、今回の商品開発では、この「堂上蜂屋柿カンフェクト」の復刻に挑戦。堂上蜂屋柿をじっくりと低温乾燥させてパウダー状にし、砂糖と合わせることで、絶妙な食感を味わえる琥珀糖が誕生しました。

YAMANOUE-FUJI 小屋



株式会社 佐合木材
〒505-0034
美濃加茂市
古井町下古井450-1
tel:0574-26-3111

美濃加茂市の市制施行と同じ1954年に創業し、市とともに70年目を迎える会社です。今回の商品開発では、国土地理院の地図でも正式表記される市内の「富士山（標高は357（サゴーナナ）m）」に着目しました。古くから祝いの象徴される富士山を、70周年を記念する商品のテーマとし、山の傾斜や尾根などの位置を調査したうえで、趣味などで使える小屋のデザインに落とし込み、3畳、1.5畳、キッズサイズの3種類を制作。端材からは、スウェードントーチや焚き付け材も生まれました。

クラフトビール 黄金と白銀



一般社団法人8knot
〒505-0042
美濃加茂市
太田本町1-5-2
tel:050-8883-9007

商品のコンセプトは「穏やかな日常を贈る」。今回の商品開発では「清め」や「厄除け」といった観点から日本酒の風味を持たせたクラフトビールを醸造しました。美濃加茂市産のお米「ハツシモ」と市内の老舗酒蔵である御代桜醸造の酒粕を副原料に使い、吟醸香の様な上品な香りと柔らかな甘みが味わえる綺麗なビールに仕上がりました。ビールを味わうひと時が、気持ちを静め穏やかな日常を届ける。そんな思いを込めて作りました。ほっとひと息つきたい日の晩酌や大切な方への贈答品にいかがですか。

天狗くんだりフレクターと メタル飛び出し注意看板



株式会社 美光技研
〒505-0023
美濃加茂市
野笹町2-3-33
tel:0574-25-1246

当社は金属板や樹脂板に対して「デザイン研磨」の加工を行う会社です。かねてから自社の技術を地域のために活かしたいという思いがあり、今回の開発ではリフレクターと飛び出し注意看板に研磨技術を取り入れた商品を開発しました。私たちの事業所がある古井地区には、観光名所「古井の天狗山」があり、交通安全のご祈祷などにも多くの人が訪れます。そんな「天狗」をモチーフに、地域の交通安全に寄与できるような商品を生み出しました。

7051/7481



株式会社
みのかも金蝶堂
〒505-0042
美濃加茂市
太田町2601-1
tel:0574-25-2293

県内有数の梨の産地であり、多くの果樹園がある美濃加茂市山之上町。その歴史を紐解くと、梨の栽培が盛んになる以前は、さまざまな果樹の栽培が行われており、醸造用のブドウからワインが作られていた歴史もあったそうです。こうした背景から今回、2つのお菓子の素材には梨とワインを使用しました。また、商品名には太田宿が中山道で51番目の宿場であったことにちなみ「7051（中山道51）」、美濃加茂市の面積74.81km²であることにちなみ「7481（梨は一番）」と名付けました。

美濃加茂のお米 ハツシモセツト



有限会社
春見ライス
〒505-0004
美濃加茂市蜂屋町
上蜂屋2600
tel:0574-26-0150

「ハツシモ」は、岐阜県の奨励品種で、他県ではあまり出回らない「幻のお米」と言われています。晩成種で初霜の降りる頃までじっくり育てられることから「ハツシモ」と名づけられました。大粒で、適度な甘み、程よい粘りがあり、冷めても味が落ちないことからお寿司やおにぎりにぴったりです。この魅力を伝えるため、ハツシモとハツシモで作った玄米茶、そしてハツシモを使った純米大吟醸酒の「ハツシモセツト」を製作。お酒は、市が推進する「里山千年構想」から「千年の里」と名付けました。



BEAMS JAPAN監修
市制施行70周年
記念商品



私たちの みのかもの オススメ
シェアみのかも
オンラインストア

ぜひとも伝えたい魅力がたくさんあるんです。多彩な水辺の景色も、古き良き町並みもある岐阜県美濃加茂市。私たちが見つけた「手にしてほしい」「味わってほしい」特産品の数々をこだわりを込めて手がける人たちのエピソードと一緒にをご紹介します。



<https://tocal.jp/ec/shareminokamo/>
運営：株式会社ToCal



あとがき

馴染みの場所、いつも通る道、毎日会う人、私たちは普段の生活の中で多くの人や場面に出会いますが、その時の気分や感情で、見え方や感じ方はさまざまです。美濃加茂のまちで暮らし、仕事をしながら日々過ごしていますが、まちに対する感覚も毎日違って、まちそのものの表情も、面白いほどに変化します。

本誌では、このまちにゆかりのある、さまざまな人の想いを、その人たちの視点で紹介しています。ページをめくっていくと、今の美濃加茂市はこういった方々の想いが巡り巡って形作られてきたんだな、と感じる内容ばかりです。

まちに対する想いは十人十色ですが、まちへの愛着や誇りは年月が経っても変わることはなく、今を生きる私たちも、この先を生きていく世代にも、それは受け継がれていくでしょう。市制施行から70年目となりますが、これからも私たちの大好きなまち「美濃加茂市」をみんなで考え、つくりあげていけると幸いです。

美濃加茂市長 藤井浩人

ミノカモストーリー (ギターコード付)

作詞/作曲 田中慈人
Capo:2 Play key:G

G D C G Em G Am7 D
畦道の向こう入道雲横目に 誰もいない駅まで走った
G D C G Em G Am7 D G
季節彩る熱い鼓動と音色に 世代を超えて踊り歌った
G D C G Em G Am7 D
当たり前だと思っていた言葉が 生まれ育った場所のものだって知った
G D C G Em G Am7 D G
初めて覚えた海の向こうの言葉で 想いを伝えて笑い合った
C D
ほら君の話を
G D C G Em G Am7 D
いつか大切な誰かに話そう そっとひとり読み返すように辿ろう
G D C G Em G Am7 D
その時まで大事にしおりを挟んで 今日紡いでいくミノカモストーリー

夕暮れ炊き立ての新米の香りや かぶりつく梨の音が好きだった
その手ひとつで情熱と優しさを 形にする姿に憧れた
ほら僕の話
いつもとなりで笑う君と語ろう もっと胸躍るような未来を描こう
その時には新しいページを開いて 明日も紡いでいくミノカモストーリー

C D B7 Em C D G
大好きな人が歩いたこの道の上で あの日見た景色の中で
C D B7 Em C D
口にするのが少しだけ恥ずかしかったけど ふるさとして呼んでもいいかな

いつもの街が君の目を通すと こんなにも近くにあると気づくよ
暮らしの中に特別な物語を すぐそこに広がるミノカモストーリー
今日も紡いでいくミノカモストーリー

市制施行70周年記念ソング

CCNetで放送中の番組の名前でもある「ミノカモストーリー」。今回は、ゲストの想いを乗せて歌う、番組のエンディング曲をもとに、故郷への想いを紡いだ記念ソングを制作しました。作詞作曲は同番組でリポーターも務めている田中慈人さんです。



田中慈人/平成元年、岐阜県美濃加茂市生まれ。元小学校講師。「木曾の流れとともに生きたのは僕たちだけじゃない」ことを知らしめるため、ギター片手に全国を奔走中。やっぱりテーマは「恋しみ」なんじゃねえかと思う今日この頃。地元愛を歌う楽曲「カモン!MINOKAMO!!」は、地元の盆踊りでも踊られる代表曲です。